

1 学校教育目標

かんがえる子 がんばる子 やさしい子 げんきな子

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	○「通いたい学校」「通わせたい学校」「勤めたい学校」 ・児童が安心・安全に過ごすことができ、「できた・分かった」を体感できる学校 ・開かれた学校を推進し、保護者・地域が児童の健やかなる成長を実感できる学校 ・教職員が協働し支え合い、児童の笑顔から活力をもらえる学校
○児童・生徒像	・かんがえる子：学び方を身に付け、自分の考えを表現できる子 ・がんばる子：自分に自信をもち、より高い目標に向かって努力を続ける子 ・やさしい子：自分のよさと友達のよさに気付き、互いを認め合う子 ・げんきな子：心身の健康に気を付け、進んで運動に取り組み、安全に心がけて生活できる子
○教師像	○常に向上心をもち、児童と一緒に伸びようと努力する教師 ・教材研究と授業改善に努め、児童に成就感と達成感を与えられる教師 ・優しさ、温かさ、厳しさをもって指導し、児童が「愛されている」と実感させられる教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

【学校の現状】

○児童について

明るく素直な子供たちが育っている。行事等特別活動に意欲的に取り組む児童が多く、高学年を中心としてよりよい学校にしようと頑張っている。本校の基本的な生活習慣の合い言葉「かみきそあじ+1」（家庭学習習慣の定着、携行品の確認、聞き方の統一、掃除・片付けの定着、立ち止まり挨拶、時間の厳守+靴のかかと揃え）が定着しており、礼儀正しさが感じられる。持久走や長なわや短なわなど季節に合わせた運動を行い、体力づくりにも積極的に取り組んでいる。

○教職員について

児童に寄り添う指導を行い、教材研究や教材作成を熱心に行う教員集団である。タブレット端末が導入されてからは、若手教員、ベテラン教員とも ICT 教育について研修を行い、授業で積極的に活用している。長く本校に在籍している教員はいなくなり、若手教員が多くなった。経験は浅いが先輩教員の指導を受け授業力向上によく努めている。

○保護者・地域について

両者とも学校教育に対し非常に協力的である。様々な場面でボランティアとして学校を支援してくれている。コミュニティ・スクールとして学校運営にも参画してもらっており、地域の熱い思いが伝わってくる。学校・保護者・地域が「チーム栗北」として、子供の健全育成に取り組むことができる。

【前年度の成果と課題】

○学力の向上

区学力調査の目標通過率は、2教科平均 82.7%（国語 81.6%、算数 83.8%）で達成基準を上回ったが、まだ十分とは言えない。補充学習等の基礎学

力定着の取り組みの効果を高める工夫が必要であった。校内授業研究やOJTなど授業力向上に向けた取り組みは十分に行うことができた。

○豊かな心の育成

令和3年度より始めた読書マラソンを今年度も継続して行う。自己肯定感や思いやりの育成は目標を達成することができた。体験的な学習を多く取り入れ、情操教育に努めていく。

○健康・体力の保持増進

新型コロナウイルス感染症に係わる状況の改善に伴い、運動発表会やマラソン記録会の公開、水泳指導、なわとび月間を実施できた。12月から校庭で遊べる学年の制限をなくし、児童の日常の運動量を少しずつ増やすことができた。しかし、体力の低下が見られるので、年間を通して体力向上を図れるよう体育授業の改善、休み時間の活用を工夫していく。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R3	R4	R5	R6	R7
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	豊かな心の育成	○	○	○	○	○
3	健康・体力の保持増進	○	○	○	○	○
4						

5 令和5年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
基礎基本の確実な定着		5年度の目標通過率80% 定着確認テスト 70%				自己評価の際に記入			
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 継続	朝学習 (パワーアップタイム)	全学年 国語 算数	毎週火・ 木曜日 始業前 10分	【指導者体制】担任 【取組のねらい・目的】 学習内容の復習・確認。 【使用教材】国語、算数のAI ドリル	国語、算数ともにワークテストを活用して児童の達成状況を確認する。	ワークテストの個人平均正答率80%を80%以上(年2回、学期末)。	自己評価の際に記入		

2 継続	放課後 補充教室	全学年 国語 算数	・放課後 毎週月・ 金曜日 全員会 議の時 を除く	【指導者体制】 担任・管理職・専科。 【取組のねらい・目的】 つまずきがある児童を対象と し、少数指導体制で基礎 学力の定着を目指す。 【使用教材】AIドリル、計算 等のプリント、文章読解、言 語事項、漢字。	担任が児童 個々の指導目 標を設定す る。AIドリルの 学習ログやワ ークテストを活 用して、児童 の達成状況を 確認する。	個のつまずきに 応じた指導目標 を達成した児童 の割合 85%以 上。 (年3回、各期 末)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">自己評価の際に記入</div>
3 継続	サマースク ール	全学年 各学年約 10名程度 国語 算数	夏休み 期間中 の10日 各日50 分(前期 8日、後 期2日)	【指導者体制】 担任+管理職・専科 【取組のねらい・目的】 下学年にさかのぼって、つま ずきを解消する。また、夏 休み前までの授業内容の定 着をねらい、個別指導を行 いながら宿題を行う。 【使用教材】ベーシックドリル、 計算プリント、AIドリル	AIドリルや夏 休み終了後ベ ーシックドリル で前学年の学 習内容につい ての確認テスト を行う。	算数はベーシッ クドリルを行い、 平均正答率7 5%以上の結果 を出す。	
4 継続	家庭学習 強化	全学年 国語 算数 その他	年3回 6月 10月 1月	【取組のねらい・目的】 家庭学習強化週間3回実施 し、家庭学習の実践と家庭 への啓発を図る。	家庭学習状況 調査を行う。	10分×学年の 達成率90%以 上の結果を出 す。	
5 継続	校内研究 の充実	全教員	年7回 の研究 授業	【取組のねらい・目的】 伝え合う、話す力の育成を図 り、教員の指導力向上を図 る。低・中・高・専科で4つの 研究授業・協議を行う。該当 学年以外も研究授業を行い 校内で公開する。	研究授業の実 施回数	各学年1回、年 間7回の研究授 業。	
6 継続	小中連携 による授業 力の向上	全教員 全教科	年7回	共通のテーマをもとに授業を 公開し、協議することで向上 を図り、児童の学力向上に つなげる。	公開授業の実 施回数	小学校研究授 業3回、中学校 研究授業1回、 合同研修・指導 案検討等3回。	

7 継続	ICTの活用	全教員 全教科	通年	【取組のねらい・目的】 ・タブレットを活用して児童のICTスキルと情報活用能力を育成。 ・ICTを活用した分かりやすい授業を実施。 ・AIドリルを活用した基礎基本の定着。算数の授業でAIドリルでつまずきの多かった問題を週1回以上取り上げて、解説を行う。	授業観察 作品 スキル確認 AIドリル使用 状況	・3年生以上で文字入力、ネット検索、高学年でプレゼンの指導実施。 ・AIドリル強化月間300問。 ・週1回以上解説した教員数100%。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">自己評価の際に記入</div>
---------	--------	------------	----	--	--------------------------------------	---	--

重点的な取組事項－2		豊かな心の育成				
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度	
自分のよさを自覚し、自他ともに尊重し合う行動様式を身に付ける。		区学力調査の質問項目「自分には良いところがある」で70%以上。 校内調査で「自他を大切にしている」90%以上。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">自己評価の際に記入</div>			
B 目標実現に向けた取組み						
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度	
豊かな心を育む読書活動の充実	年間を通して読書マラソンに取り組む。 目標を50%が達成する。(1月末) ・50冊または10,000ページ。	・春と秋に読書旬間を実施する。 ・担任・図書ボランティア等による読み聞かせを実施する。 ・図書館との連携を図る。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">自己評価の際に記入</div>			
自己肯定感の育成 思いやりの心の育成	「かみきそあじ」調査で自己肯定感に関するアンケート項目で80%。 自他の尊重で90%。	・WEBQU アンケートの分析と校内体制で支援を行う。 ・全教職員による「ほめ育て」の実践。 ・体験的学習の実践。 ・ボランティア活動の実践。				

命をつなぐ千住ネギの栽培活動	・4年生が年間を通して、千住ネギを栽培し、種を次年度の4年生に引き継ぐ。	・千住ネギ栽培を引き継ぐ意義を理解させる。 ・花壇ボランティアや農業委員の力を借りながら1年を通して栽培を行う。	自己評価の際に記入
----------------	--------------------------------------	---	------------------

重点的な取組事項－3	健康・体力の保持増進
-------------------	------------

A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
生活習慣の定着と体力の向上	「かみきそあじ」調査3回、生活振り返り週間の調査・結果周知を2回行う。 体力テストの都平均を半分の種目(各種目の学年・男女別)で上回る。	自己評価の際に記入		

B 目標実現に向けた取組み				
----------------------	--	--	--	--

項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
体力の向上 (特に投力)	体力テストの都平均で前年度を上回る。各種目を学年・男女別にした96種目中、半分の48種目で都平均を上回る(前年度は41種目)	・投力を高める運動を毎時間の学習過程に組み込む。 ・業間体育(マラソン、短なわ)の実施。 ・運動の日常化。	自己評価の際に記入		
基本的な生活習慣の定着 (特に挨拶・整理整頓)	小中連携校で共通実践「かみきそあじ」(家庭学習・身に付けるもの・聞き方・掃除・挨拶・時間を守る)調査で85%。	・年3回の生活振り返りの実施。 ・毎日の挨拶運動。 ・児童朝会での啓発。 ・調査結果の提示。	自己評価の際に記入		
保健衛生指導の推進	・虫歯罹患率15%未満。 ・虫歯未治療率30%以下(年度末)。	・ハロー6ちゃんや染め出し等歯みがき指導の実施。 ・継続した虫歯治療勧告。 ・ポスターコンクールへの参加。 ・年間を通じた手洗いの励行。	自己評価の際に記入		

